

ICTを活用した見守りの街 糸島

九州大学の“ICカード”技術を活用した
「市民参加型」の実証事業



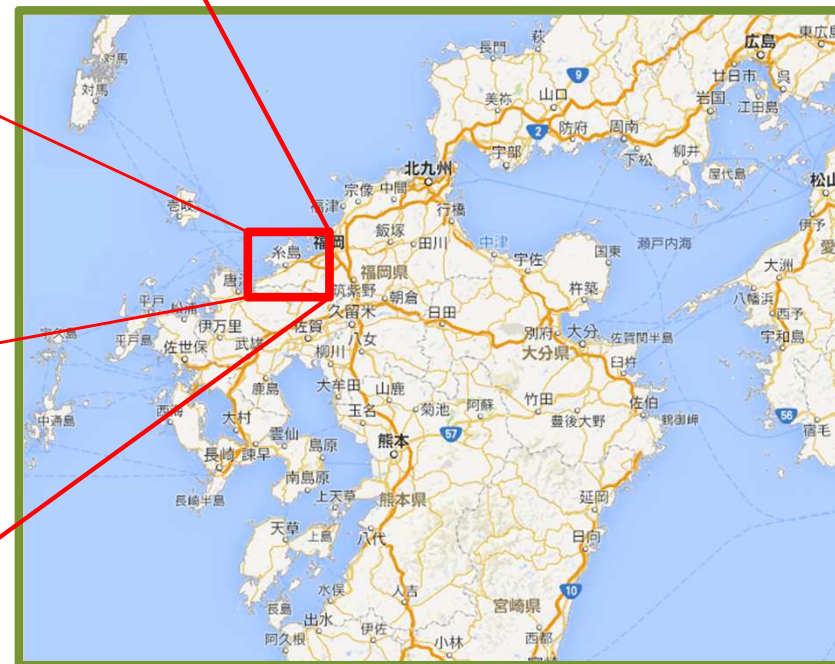
- 1 糸島市の紹介
- 2 事業の必要性
- 3 事業概要 「ICTを活用した見守りの街 糸島」
- 4 事業の背景と目的
- 5 構築したシステム
- 6 実証内容1－非常時のための事業
実証内容2－平常時のための事業
- 7 現在の状況
- 8 事業成果と今後に向けて

1 糸島市の紹介

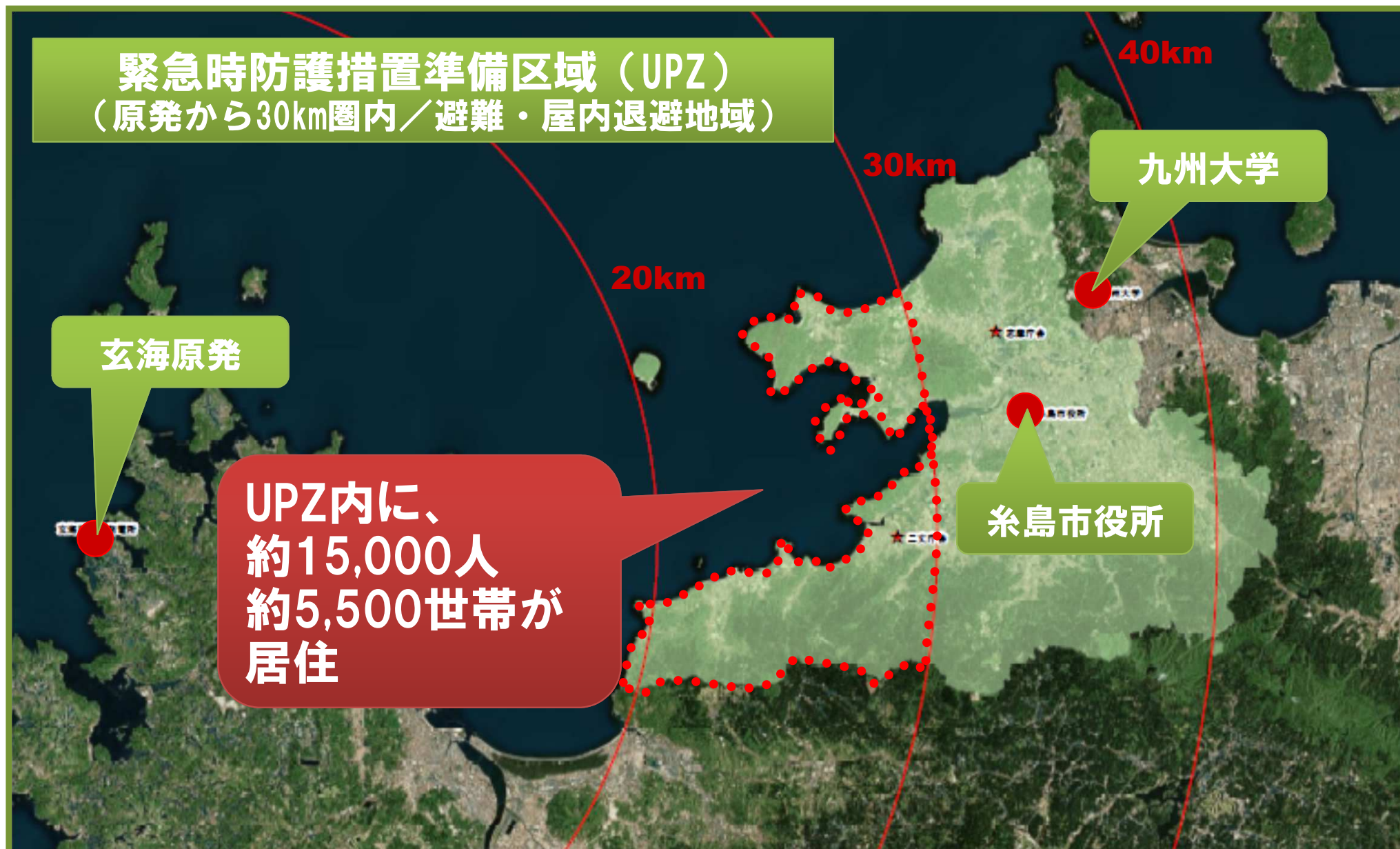
平成22年に旧前原市、二丈町、志摩町が合併して誕生



人口 約10万人
面積 216.15km²



2 事業の必要性



非常時には避難住民の人員確認に、平常時には見守りに

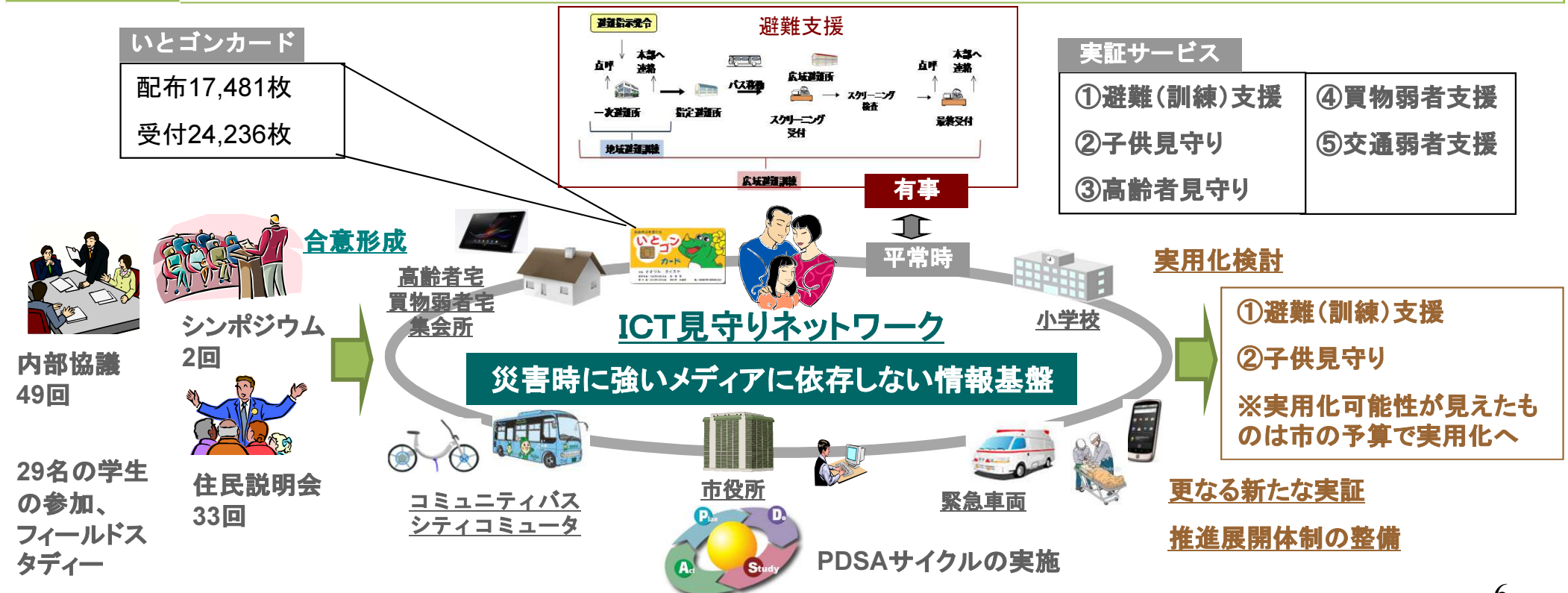
■ 九州大学のICカード技術を活用した、市民参加型の実証事業

■ 九州大学と糸島市との連携事業では、過去最大規模（2万5千人対象）

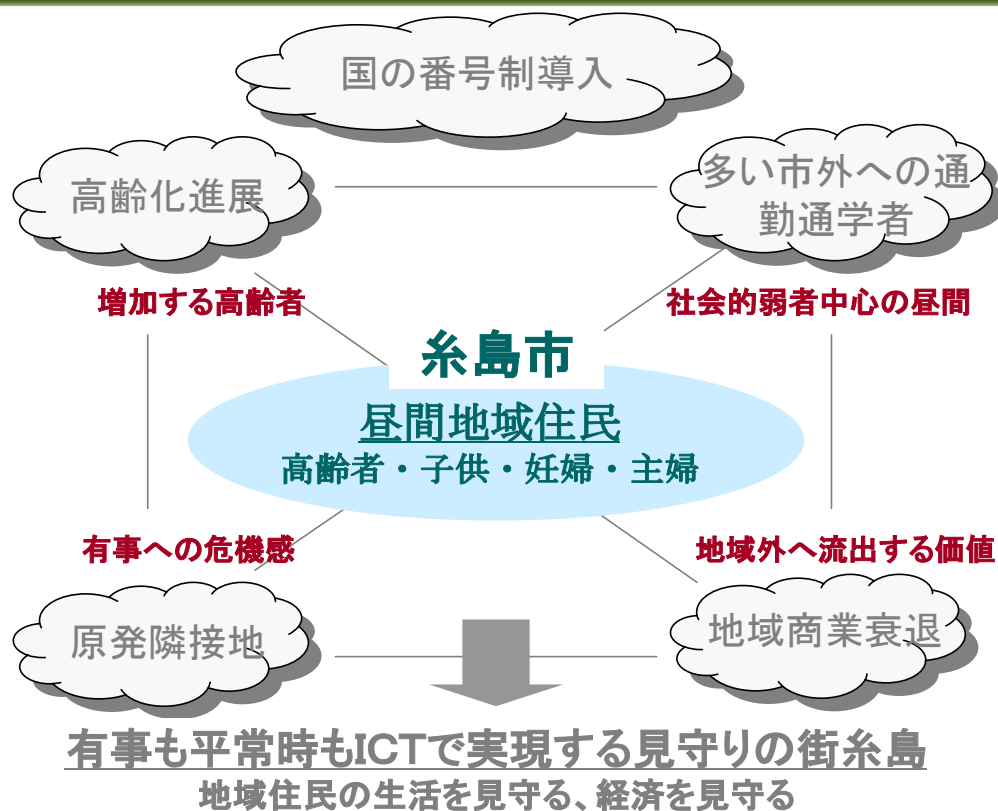


3 事業概要 「ICTを活用した見守りの街 糸島」

実施団体名	糸島市、国立大学法人 九州大学、独立行政法人 国立高等専門学校機構 北九州工業高等専門学校、財団法人 福岡県産業・科学技術振興財団 社会システム実証センター、公益財団法人 九州大学学術研究都市推進機構、(株)三好不動産		
実施地域	福岡県糸島市	実施期間	平成25年9月～平成26年3月
事業概要	原発事故や自然災害等の有事における住民全員に対する見守りと、平常時の子供、高齢者等の社会的弱者に対する見守りを行う事業。世界標準のTypeBGP仕様ICカードを用いた九大発VRICS技術による社会情報基盤採用のシステムで避難(訓練)支援、小学生の見守り、高齢者の見守り、買物弱者の見守り、交通弱者の支援を前提とした市営交通手段維持のための効率化、サービスの高付加価値化を行う。事業の内成果が明確化したものは自治体が自らの予算で事業を継続、課題が見つかったものは改善しさらなる実証を行い実用化へ。		
実証結果	<p>実証結果：原発事故想定避難訓練95分→41分土砂災害想定避難訓練60分→20分以下 前者は93.6%が後者は86.3%が便利で効果ありと回答、小学生の見守りも50%以上が継続を希望（継続否定は4%）</p> <p>合意形成活動：内部協議49回/住民説明会33回/シンポジウム2回 学生参加：九州大学、福岡大学学生の事業参加</p>		



4 事業の背景と目的



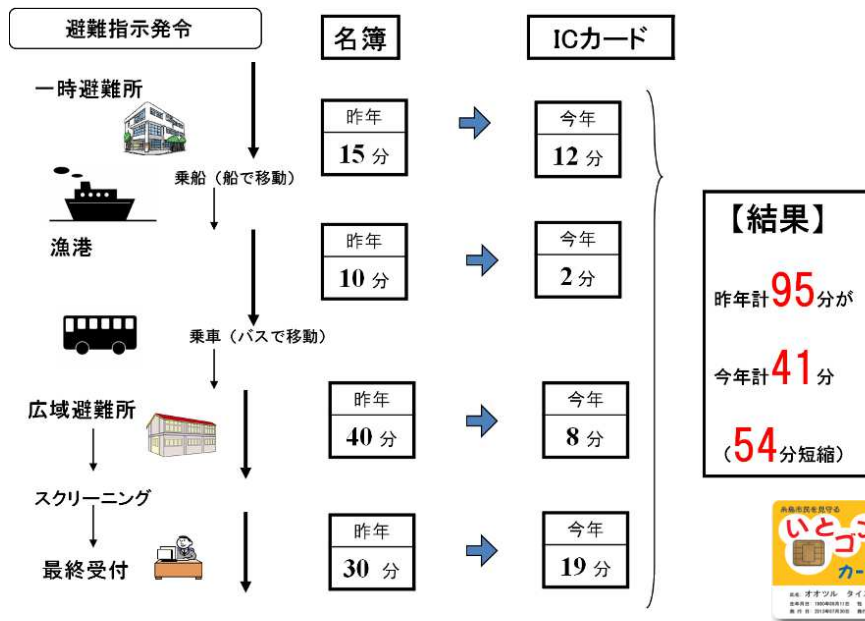
目的

- ①有事の避難体制整備
- ②子供独居老人の見守り
- ③買物弱者の解消
- ④公共交通機関の運営効率化
- ⑤有事の住民サービス維持
- ⑥番号制システムへの円滑な移行

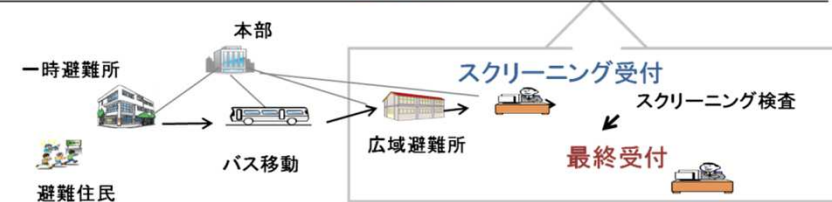
5 構築したシステム



6 実証内容 1 - 非常時のための事業



行政区	処理方法	場所	平均時間(秒)/人 (サンプル数)
姫島	カード	スクリーニング受付	16.8 (24)
		最終受付	2.5 (32)
佐賀県	名簿	スクリーニング受付	227.2 (31)
		最終受付	11.2 (23)
長崎県	名簿	スクリーニング受付	497.1 (18)
		最終受付	6.9 (18)



地域カードによる有事の見守り

災害発令	一時避難	現地負傷者	バス搭乗	バス下車	スクリーニング受付	避難所受付
13:00	13:50	14:00	14:30	18:30	19:00	19:10
	50	20	40	39	38	35

リアルタイム避難状況(対策本部)

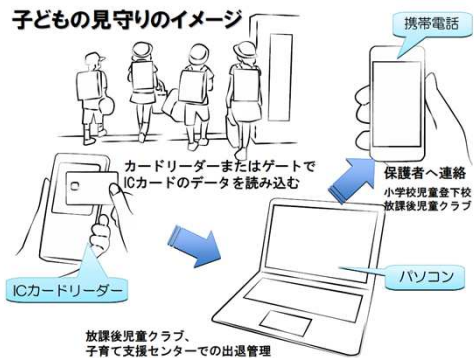
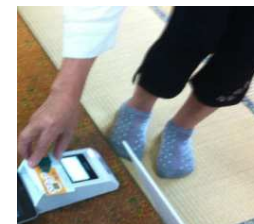
集計避難情報

家族ごとの避難情報

6 実証内容2 - 平常時のための事業



子供 高齢者



乳幼児
子育て支援センター
お母さんと子供の見守り



- 血液型
- アレルギー
- 通院先
- 投薬履歴
- 病歴
- 緊急連絡先



登下校見守り

地域カードによる平常時の見守り

会合出欠見守り



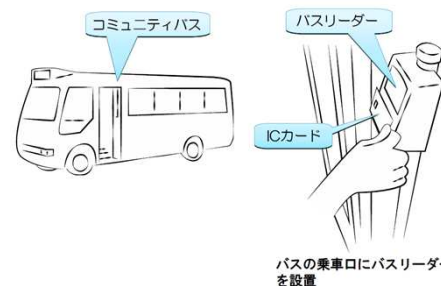
平常時持ってもらえないものは有事に役立たない!

御用聞き(検証のみ)

買物不便地域で、欲しい商品を買うことができる。

コミュニティバス利用のイメージ

緊急時見守り(検証のみ)



地域電子マネーバス決済 簡易バスロケ(検証のみ)



買物弱者

交通弱者



【利用者・カード発行】

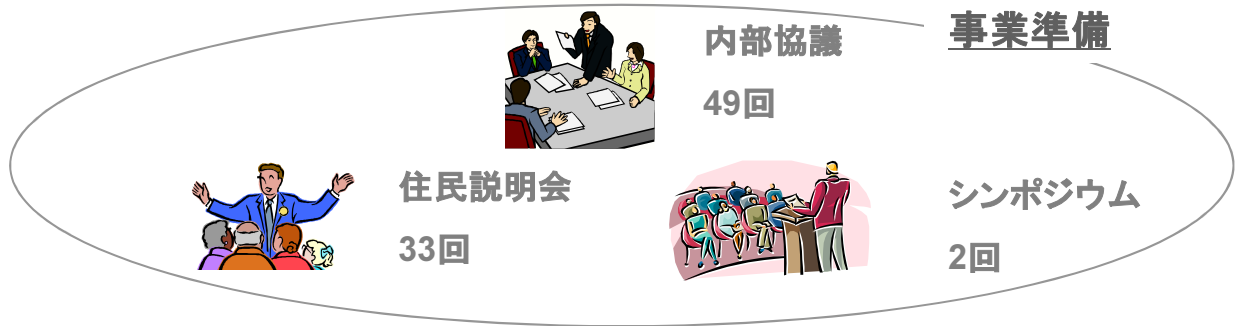
- ◆利用者17,481名
- ◆発行受付済み24,236名
- ◆現場のニーズを織り込みシステムへのニーズフィードバックを継続実施中
 - 小学校では、4月以降新入生の申し込みが発生
 - シニアクラブの新規受付増加

【新たな実証への要望】

※以下では、さらに新たなシステムニーズ実証要望が発生

- ◆小学校における新規実証の要望
 - 子供の引き渡し/学校内サービス教育の見守り
- ◆シニアクラブにおける見守りの充実
 - 独居老人、具合が悪くなった高齢者の対応
 - 救急車輻にNFC携帯、消防と連携

8 事業成果と今後に向けて



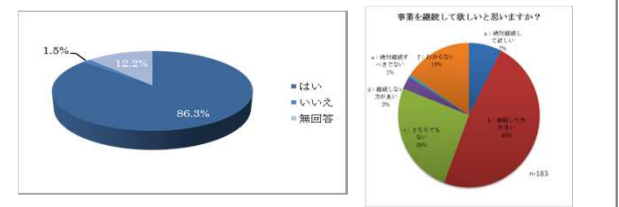
見守り

有専用

配布17,481枚
受付24,236枚



実証



平常時用

子供：子どもの見守りのイメージ。ICカードリーダー、パソコン、ICカード。放課後児童クラブ、子育て支援センターでの出退管理。

買物弱者：買物弱者対策のイメージ。移動販売、タブレット端末で商品注文。買物不便地域で、欲しい商品を買うことができる。

高齢者：高齢者の見守りのイメージ。シニアクラブ、ICカードリーダー、パソコン。イベントなどの活動の際にICカードで出席確認。シニアクラブでの出退管理。

交通弱者：コミュニティバス利用のイメージ。血液型、アレルギー、通院先、投薬履歴、病歴、緊急連絡先。コミュニティバス、バスリーダー、ICカード。バスの乗降口にバスリーダーを設置。

全て50%を超える継続希望

継続否定はほとんどないが「わからない」も多い→継続検証の必要性

次年度へ向けて

新たな体制作りを検討

- 平成25年度に実施した事業の継続
- 実証期間中に出た新たなニーズの実証

糸島市と九州大学
引き続き連携

ICT街づくりを推進展開する新組織
(仮称)次世代社会システム普及推進センター構想